

認知症、その笑顔を守りたい。



老化と認知症の『もの忘れ』の違い

老化	認知症
経験したことが部分的に思い出せない	経験したこと全体を忘れている
目の前の人の名前が思い出せない	目の前の人や誰なのか分からない
物の置き場所を思い出せないことがある	置き忘れ・紛失が頻繁になる
何を食べたか思い出せない	食べたこと自体を忘れている
約束をうっかり忘れてしまう	約束したこと自体を忘れている

高齢化が進む日本。

認知症は高齢者の5人に1人になる病気だと予測されています。

若年性の認知症もあり、決して高齢者だけの問題ではありません。地域の支えが必要不可欠な認知症。その取組みを特集します。

知っていますか？ 認知症のこと

認知症は、脳の病気です。脳は、記憶(覚える・思い出すなど)、感覚(見る・聞くなど)、思考(理解・判断など)、感情(喜び・悲しみなど)、からだ全体の調節(呼吸・睡眠・体温など)といった、生きていくために必要なほとんどのはたらきをコントロールしています。

それらははたらきは脳のなかで役割分担されています。様々な原因によって脳の細胞が死んでしまったり、はたらきが悪くなったりするため、様々な障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態を『認知症』といいます。

認知症の種類

認知症にはいくつかの種類があり、症状もそれぞれ違います。

・アルツハイマー型

▽ゆっくりと進行し、もの忘れが目立ち、探し物が多くなる

・脳血管性認知症

▽意欲が低下したり、気分が

落ち込んだりする

・レビー小体型認知症

▽歩行が小刻みで転びやすくなる、実際には見えないものや人が見えると話す

・前頭側頭型認知症

▽決まった時間に決まった行動をするようになる、行動に制限がきかなくなる

大切な早期受診、 早期発見

認知症の早期の発見、早期の受診・診断、早期治療はその後の人生を左右する非常に重要なことです。

認知症はどうせ治らないから医療機関にかかっても仕方ないという誤った考え方は改めましょう。

また、症状が軽いうちに、病気とどう向き合い、どのような生活をしていくのかを専門家に聞くことで、自分らしい生き方をすることが可能です。